



Special #1 [特集 1]

いつも身近に、立命館

— 母校の教学環境を生かしつつ活躍する校友たち —

Special #2 [特集 2]

京都の文化・芸術に触れてみませんか？

— 広がるアート・リサーチセンターの取り組み —

輝くひと
brilliance 35

人生の全てを懸けてきたもの、
それがレース。

田中 哲也さん (平1経済)
レーシングドライバー

表紙の人



田中 哲也さん (平1経済)

T a n a k a T e t s u y a

一瞬にして鼓膜を引き裂くエンジンの爆音とあまりのスピードに、カメラを持つ手が震える。2000年オートバックスナップ・全日本GT選手権第4戦。田中さんを富士スピードウェイに訪ねた。

GT500クラス、ユニシア・ザナヴィスカイライン（ハセミ・モータースポーツ）。平均時速200km/h、1周4.4kmを1分28秒台で走る。冷水が循環するクールスーツに身を固めるものの、エンジンの発する熱は容赦なくフロアもペダルも焼き、走行中の車内気温は60℃。そして身体にのしかかる重力。過酷の極みと言える中、エンジンやタイヤの状態、他車との駆け引きを冷静かつ瞬時に判断し、前後ブレーキの利き具合の微調整など各種操作を忙し行う。チームの同志の熱い思いを背に、メカニックの整備技術に命を預けアクセルを踏み込む。密室での孤独な個人技のようなが、実は深い信頼関係で結ばれた団体競技だ。

500クラスでは、アクシデントがなければ車の性能が結果に如実に表れる。それを最大限に引き出せる腕を持つドライバーだけが、1周あたり0コンマ数秒を競う熾烈な戦いの場に臨める。決勝レースは11位完走。2000年モデルの高性能車がひしめく中、追突をくらったトラブルを跳ね返してこの順位は99年型車としては大健闘といえる。

かの天理高校野球部レギュラー部員の経歴を持つ田中さんだが、立命館大入学後、白球を追った期間はごくわずか。鍛え上げられた身体は運動の刺激を欲した。好きな言葉は「野望は螺旋階段を登るが如し」、苦勞のほどが伺われる。駆け出し時代、膨大な資金の調達に苦しみ退学まで考えたが、幸運にも先輩校友で外車販売会社社長の松本誠氏（昭47経営）に見込まれて援助を得られた。90年にプロデビューした後は両足骨折事故をも乗り越えて、フォーミュラ・ニッポンをはじめ花形の舞台で活躍するまでに。グランドツーリングカー（GT）のハンドルを握れば特に耐久レースを得意とし、スーパー耐久シリーズではランキングトップ。一流レーサーとして名を立てている。

オフ時には愛車のオープンカー、ホンダS2000でドライブを楽しみ、次のデッドヒートに向けて英気を養う。上位でチェッカーを受け続け、ぜひ野望を膨らませてもらいたい。（写真・文 小幡 豊）

田中哲也さんHP <http://ipshome-gw.auto-s.co.jp/T.T/main.html>

C

O N T E N T S

Special #1
特集1

1 輝くひと 田中 哲也さん

3 いつも身近に、立命館

—母校の教学環境をいかしつつ活躍する校友たち—
岡本成一さん・坪内幸久さん・杵島直子さん・
岡部泰治さん・丸山善典さん



8 RITSUMEI INTERVIEW

中国語で夢をみた時には 万歳! と叫びました
新田知子さん

10 りつめい誌上土曜講座

海浜砂丘と失われた川原の狩蜂たち
遠藤彰理工学部教授

12 われら立命人

2000年 日本一周・一万キロに挑戦
荒川 武さん

13 立命館秘話

グリル“クラルテ”命名裏話
吉田幸彦さん



14 校友会ネットワーク

16 立命館ファミリーカードコーナー

Special #2
特集2

18 京都の文化・芸術に触れてみませんか?

—広がるアート・リサーチセンターの取り組み—
赤間亮文学部助教授

21 国際教育最前線

異文化間コミュニケーションと
「アジア太平洋地域理解」の新しい取り組み
仲上健一APU教学部長

22 キャンパストピックス

24 学生のスポーツ&イベント

26 お知らせ

27 学園創立100周年記念募金 募金者一覧

32 INFORMATION



開かれた大学、立命館大学。
一般向けに開放されている研究教学システムや施設は数多い。
そしてたくさんの校友が、卒業後も
母校の環境を仕事や自己研鑽に生かしたり、
母校と社会とのつなぎ役として活躍している。
そんな5人の方にお話を伺った。

いつも身近に、立命館

—母校の教学環境をいかしつつ活躍する校友たち—



Okabe Yasuji



Okamoto Seiichi



Tsubouchi Yukihisa



Maruyama Yoshinori



Kishima Naoko



舞鶴市と立命館大学の リエゾン提携窓口役を務める



岡本 成一さん
(昭41経済)

舞鶴市保健福祉部長
兼企画調整係長



坪内 幸久さん
(昭52産社)

舞鶴市企画調整課主幹
兼企画調整係長

京都府北部の中核都市舞鶴市には約三五〇名の校友が在住、舞鶴校友会もコンスタントに活動を続けている。

その舞鶴市と立命館大学とは、一九九二年秋に京都府・府北部四市・立命館大学が国際シンポジウムを共催したことを皮切りに次々と各方面で交流・提携を進めてきた。立命館が舞鶴の社会・自然環境に関する調査研究の委託を受けたり、市職員研修のプログラム立案に参画したりという個々の事業を通じてつながりを深め、昨年八月には正式に学術交流協定を締結。お互いの協力関係をいっそう発展させていくこととなった。

両者が連携しての取り組みは市民に好意的に受け止められている。公開講座「立命館まいづる講座」は募集定員を大幅に超える盛況ぶり、こうして市民の知的な欲求・関心が高まる中、舞

鶴在住・在勤の社会人を対象とした推薦入学の協定も結ばれ、本年四月から初の推薦学生が法学部で学んでいる。一方、市役所への本学学生のインターンシップ受け入れも昨年からは始められ、学生たちが貴重な経験の場を得ている。

「四年制大学を持たない市民の目に大学が具体的な形で見えるようになってきました。過去の個々の事業の積み重ねの結果、舞鶴市と立命館との関係が正式かつオープンな形で確立し、卒業生の市職員として本場に嬉しいことです。こう語るのは、岡本成一さんと坪内幸久さん。

坪内さんは企画調整職員として立命館とのリエゾン活動にかかわって四年目、正式に学術交流協定が結ばれる以前から、大学とのやりとりの窓口役を担当している。「地方分権が進む中で、まちづくりの基本は、地域の各種資源に気付き、磨いて、輝かせていくことだと思っています。そのためにいかに知恵を出し合うか。新たな知恵を生み出していくため、大学の知的資源の活用は不可欠です。私自身、大学というものの、自分の母校の多様性や可能性の大きさを再発見したと思います。こちらが問題を投げかけると、『ああ、それ



舞鶴市役所で行われた研究会にて
右奥が坪内さん。左端・本田政策科学部教授、その隣・
座長の林産業社会学部教授。

■立命館大学のリエゾン活動

本学では、社会の様々な要請に応えつつ教育・研究水準を高めていくことを目的とし、受託研究・共同研究等さまざまな産官学地域交流事業を推進しています。衣笠・BKC両キャンパスのリエゾンオフィス、大阪オフィス、東京オフィスが、本学と社会を結ぶ窓口となっています。

●衣笠リエゾンオフィス

TEL 〇七五-四六五-八二五二

●BKCリエゾンオフィス

TEL 〇七七-五六二-二八〇二

だった」と、すぐに反応をいただきますからね。大学側も教育研究活動のフィールドとして当地をどんどん利用して下さったらい。双方にメリットのある交流をこれからも続けていきたいと思っています。たまたまこういう時期に担当セクションに居合わせて、卒業生冥利につきます(笑)。

岡本さんは、昨年度インターンシップ学生を受け入れた保健福祉部の部長。そして、市役所在勤校友三三名でつくる舞鶴市役所立友会の会長でもある。「学生諸君には遠慮無く我々にアタックしてほしいです。まちづくりに夢を持ち、それを具現化していく過程をぜひ舞鶴市で体験してほしいし、学生ならではの視点でアイデアも出してほしいと思います。立友会のメンバーを見ていると、最近張り切り方が違います。母校がこれだけ市と手をつないでいますので、なんとか自分たちもこの輪の中で活躍したいという意欲が何え、頼もしいですね」

舞鶴市では現在、総合計画を策定しているが、それにあたって審議会を設け、当初からこの連携のイニシアチブをとってきた「まいづる大使」の林堅

いつも身近に、立命館

母校の教学環境をいかしつつ活躍する校友たち

資格は立命館大学在學生に限られたものではないことをご存知だろうか。特に校友については、受講料等、在學生と同じ条件で優遇されるので、これを利用しない手はない。

杵島直子さんは、社会人として忙しい仕事をこなしつつ今年度から始まった「通関士講座」を受講、うまく両立させている。食品輸入の会社に勤める杵島さんが扱う品は流行のワイン。念願かなって輸入業務に直接携わることになり、専門的な通関の勉強の必要性

立命館大学エクステンションセンターは、学生のキャリア開発と資格試験合格をサポートする機関として一九九三年に発足した。現在、公務員・司法試験・公認会計士の三大講座をはじめ二〇の講座を開講。昨年度はのべ一万一千人もが受講して、自己研鑽に励んだ。

さて、エクステンション講座の受講資格は立命館大学在學生に限られたものではないことをご存知だろうか。特に校友については、受講料等、在學生と同じ条件で優遇されるので、これを利用しない手はない。



杵島 直子さん
(平10国関)
(株)徳岡
商品部商品2課

エクステンションセンターの「通関士講座」を受講している

太郎産業社会学部教授がその座長を務めている。審議会からの提言の一つに「大学連携センター構想」があるが、これは、大学のソフト面（機能）を市に常駐させ、さも大学が実在するよう

な状態をつくることにより、知的なものが生み出すパワーで舞鶴を活性化させようという画期的なものである。「大学の誘致を考えていた昔の発想から脱却した、現在の舞鶴に一番合った

を感じていたとき、就職活動で杵島さんを訪ねてきた本学四回生から、エクステンション通関士講座について教えられた。今は、入社が内定したその学生と机を並べて受講している。

「独学では無理そうだと思っていたところ、立命館に講座ができたことを知り、ラッキーでした。先生は専門学校で教えていらしゃる方で、お話し、オリジナルのテキストともにわかりやすく、実技（書類作成・計算）の時間もあつという間に過ぎます。私には現場での知識が多少ありますので、それと絡めてより興味をもって授業に臨むことができ、今年一〇月の受験も前向きに考えられるようになったので、受講してよかったです。」

通関士講座は五月開始。一〇月初旬まで土曜日を中心に計一九回、一〇時三〇分から一六時一〇分までという長丁場だが、苦もなく過ぎるとのことだ。関西空港等の保税地域の見学会も、オプションで用意されている。

他にはどんな魅力があるのだろうか。「何と言っても授業料の安さでしょう。立命館の校友は在學生と同額、一般の専門学校は三分の一程度の料金で受講できますから、本当に助かります。土曜日にキャンパスに通う元気さえあれば、学生向けの特典が存分に使えますから、若い学生のパワーを吸い取るつもりで皆さんも是非利用してみて下さい。立命館の空気に慣れている人なら、すぐに馴染んで勉強できます

方法でしよう」と岡本さん。工夫に満ちた施策を展開するため、立命館大学は舞鶴市の良きパートナーであり続け、校友職員の活躍の場も一層広がっていくことだろう。

■エクステンションセンター総合講座

公務員・司法試験・公認会計士・弁理士・通関士・不動産・旅行業・ファイナンシャルプランナー等の資格試験対策講座をはじめ、計二〇講座を開講。

講座により、スケジュールや開講場所・形態がまちまちですので、まずはお問い合わせ下さい。

●衣笠エクステンションセンター

TEL 〇七五 四六五 八二九七

●BKCエクステンションセンター

TEL 〇七七 五六 一一二八五三

よ」

実は杵島さんは、学生時代からエクステンション講座の常連だった。TOEFL講座をはじめ、その時々に関心に応じて受講した。他に、UBCジョイントプログラムに参加したり、海外セミナーで渡仏したりと、大学が学生に用意した教学環境を楽しみながらとことん利用した人である。「おかげで今、好きな貿易の仕事ができています。今回の通関士講座受講は自分にとっての必要度も大きく、ひとつの節目になります。」

通関士試験は一〇月。ぜひとも頑張ってもらいたい。そして、ボージョ・ヌーヴォーの輸入で超多忙な一月を、明るい気分で迎えていただきたいものだ。

企業人生活を終えてから 大学院に入学した



岡部 泰治さん
(昭35経済)

日本学生卓球連盟監査役
関西学生卓球連盟副会長

本学経済学部卒業後も、体育会卓球部OBとして部の運営を支え、この四〇年間ずっと立命館と関わり続けてきた岡部さん。今年三月、豊和硝子(株)常務取締役を最後に企業人としての生活を終え、四月から大学院社会学研究科の社会人学生として再出発した。

「退職の二、三年前から、もう一度勉強し直したいと考えていました。学生時代は卓球、卓球、そればかりで、自ら進んで学んだとは言いがたいです。人生八〇年と言われる現代、私にはまだ二〇年もの歳月があります。卓球連盟の仕事も、いろいろな方と議論をしつつ進めるわけで、勉強しているのとしていないのでは成果が全然違うでしょうからね。」

研究テーマは「学生スポーツ団体(連盟)の運営とマネジメントについて」。日々頭を悩ませている諸事を体系的に考察し解決につなげることを目指し、スポーツ社会学・山下高行教授の演習で勉学に励んでいる。同級生も、先生方までも年下という環境で、楽しく、新鮮な刺激を受けている。「先生に、簡単に考えてはいはいけないと釘を刺されています。入学してからの

日々は全く暇なしに過ごしています。」社会学研究科の社会人入試は、小論文と入学後の研究計画についての試問の二本立てで行われる。岡部さんはどんな受験勉強をしたのだろうか。

「当初はゆっくり準備をしようと思っていました。二月にも入試があることを知り、急遽昨年の秋から勉強を始めました。まず、パソコンの使い方を家内に教わりました。小論文対策は社会問題・環境問題中心の読書や新聞を隅々まで読むことに加え、実際にどんな書き方をして娘から批評を受けました。正月でも、遊んでいると家族に叱られるのです(笑)。研究計画のほうは、一人で、卓球連盟の運営にあたり自分が直面している問題を整理して作り上げました。家族だけが知る中でこっそり受けるのでは自分は努力しないのではと思い、周囲の、ポイントになる方には受験を打ち明けて臨みました。楽しみ半分、苦しみ半分の受験でした。」

結果は見事合格。友人・知人も岡部さんの第二の学生生活に興味津々の様子。



「社会調査実習1」の授業での岡部さん(右から2番目)。
右端は担当の深井教授。

■立命館大学への社会人入学

左記へお問い合わせ下さい。

●大学院各研究科への入学は
大学院課

TEL 〇七五―四六五―八一九五

※二ページの説明会案内をご覧ください。

●学部への入学・編入学は
入学センター

TEL 〇七五―四六五―八二五七

子だそう。岡部さんから、先達としてのアドバイス、励ましの言葉をいただいた。

「よく、『どうや?』と電話がかかります(笑)。本当に勉強し直そうと思う方は、どんなチャレンジしたらいいと思いますよ。入試のこと、入学後の勉学のこと、いろいろな心配になるかもしれないですが、我々は社会人生活を何十年とやってきて、一つの業を終えたわけですから、仮に研究生活が調子よくいかなくても失うものは何もない。こういう前向きな開き直りをもって臨めばいいじゃないですか。私は学生時代に触れることのなかった社会学に非常に魅力を感じています。知らないものだからこそ知りたい。在職中はいかに利益を出すか、そればかり考えていました。今は一歩引いて、社会全体のことを思います。学問というのは明日の食事に直結するものではないけれども、やがては確実に世の中のためになっていきますね。そのことをしみじみと感じています。皆さん、また京都で学生生活をしましょう。ぜひ立命館大学へ戻って来て下さい。」

いつも身近に、立命館

母校の教学環境をいかしつつ活躍する校友たち



児童が見学後の感想を記した新聞

大学が持つ施設としては世界で唯一の総合的な平和博物館、立命館大学国際平和ミュージアム。一〇〇〇点にのぼる物・写真資料、映像、音声駆使して戦争の実体を明らかにし、平和の尊さを伝える。一九九二年の開館以来、約三〇万人が訪れた。

去る五月三日には、美濃加茂市立山上小学校の六年生三六人が来館。「平和友の会」のボランティアガイドによる記録は「先生方の日頃のご指導が来館態度に表れ、よく興味を示し、質問し、感じてくれるかわいい子どもたちであった」と締めくくられている。担任の丸山先生は、二度目の引率来館とのことである。



丸山 善典さん
(昭55産社)

岐阜県美濃加茂市立山之上小学校教諭

国際平和ミュージアムを 受け持ちの児童とともに見学した

同じく京都の大学で学んだという近隣の小学校の先生からの情報で、昨年初めて国際平和ミュージアムを修学旅行のコースに入れてみた。お寺、お寺と続く奈良・京都の旅行の中で、一種独特の、スパイスのような見学スポットとして子どもたちの心に残る場所になるそう。

「戦争のことを授業で扱うのは二期なので、十分な土台をもって見学できたとは残念ながら言えませんが、でもインターネットを通じて、ミュージアムのホームページにある、小・中学生向け展示案内“を利用した事前学習ができましたので、大変ありがたかった。実際に展示を見たときの興味の示し方が違います。あのページは、秋の授業でもいろいろ活用できそうです。”

予約時に依頼すれば、ボランティアガイドによる説明を受けられる。「今年は見学が他の団体と重なったので、各展示コーナーごとにガイドの方が立ってくださいました。昨年は私たちがだけでしたから、クラスが六グループに分かれて、それぞれにガイドさんがびったりついて回って下さったんですよ。とてもわかりやすい説明で、子どもの話もよく受け止めていただけました。」

子どもたちの感想はどうだったのか。「この新聞を作った児童のようにミュージアムが一番印象に残ったという子もいます。たくさん展示品をじかに見る事ができますから、本などで文字を読むよりもずっと惹きつけられるようです。欲を言えば、複製品でもいいので、資料を手にとって触れてみる事ができればなお有り難いですね。体験学習としての効果がぐっと上がるでしょう。教師としては、単に“戦争は怖い”というイメージだけを植え付

■立命館大学国際平和ミュージアム

〔開館時間〕

九時三〇分～一六時三〇分

(入館は一六時まで)

〔休館日〕

月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)

祝日の翌日・年末年始・夏期一定期間

※衣笠キャンパス東側に隣接

※修学旅行・社会見学等の団体見学も歓迎いたします。お問い合わせ下さい。

TEL 〇七五-四六五-八一一

(URL) <http://www.ritsumei.ac.jp/kic/a06/index.html>

※「ホームページの特別展示案内」もご覧下さい。

けて終わることのないように気をつけています。怖い“が先に立って、過去の歴史から学ぶことに子どもが背を向けてしまうようではいけませんから。」

先生同士の情報交換により、今では美濃加茂市・可児市・加茂郡などで国際平和ミュージアムを訪れる小学校が増えてきているそう。子どもたちの周囲に戦争体験者が年々少なくなる中で、ミュージアムに展示されている数々の物言わぬ語り部たちはその存在感を増しつつある。



ミュージアムロビーで職員から説明を受ける児童たち。

中国語で夢をみた時には 万歳！と叫びました

長い人生をどう生きるか
とことん悩み、決めたら迷わず

中国語の通訳を目指されたきっかけは

学生時代に、第二外国語として中国語を四年間学んだことです（笑）。四回生の時には危機感を持って勉強しました。三回生で通っていたら今の私はありません。でもその時は中国語をここまでつきつめようとは考えていませんでした。真剣になったきっかけは、卒業旅行に出かけた先の中国で、人民解放軍の方と出会ったことでしょいか。私のレベルは、何とか筆談で簡単な意思の疎通ができる程度でした。それでもその軍人さんは、「中国語の勉強、頑張って下さい」と励まして下さったんです。その時に思いました。まがりなりにも四年間も関わった中国語を中途半端に放り出したらだめだって。浪人までして大学に入ったのに、やりたいことも見つけれないまま卒業しつづめる。長い人生、私はいったい何をしていくのかと。でも、しばらくはエンジンがかからず、本気で勉強しだしたのは二五歳で結婚してからでした。

それが、超難関と言われる「通訳案内業国家試験」に合格されるまでになるのですから、大したものですね。

勉強をやり直すにあたって、中国語

を私のライフワーク、

「職業」にしようと思

したんです。昼間に語学

学校へ通うため、仕事は

夜、進学塾の講師をし

ました。始めた頃は五年間

あれば何とかなるんじやないかと思

ったんですが、甘いとわかりました。そ

れでも諦めずに、毎日の勉強のノルマ

を自分に課し、ちやうどその頃生まれ

た子供をおぶって学校へ通ったりもし

ました。そのうちに、まずはボランテ

ィアからでしたが、幸いにも中国語を

つかう仕事が少しずつできるようにな

ってきました。中国残留孤児の方の指

導員をさせていただいたり、警察通訳

や行政の通訳をしたりです。そんなこ

とを通じてどんどん力がついていきま

した。そして昨年の十月まで、中国人

経営の会社で三年半働きましたが、こ

こでは本当に鍛えられました。他の社

員は中国人です。同じ東洋人だと言

で言いますけれども、いろいろな習慣

が違う、感じ方が違う、善し悪しの基

準が違う、まさに闘いでした。でもそ

の中で、ボスが私の力以上に多くの仕

事をさせてくれました、私の中国語の

力、それとともに中国の文化に対する

理解も深まり、何とかここまで来られ

たのかなと思っています。

自分探しの過程は辛く、格好悪いでも諦めないで

は考えられないほど広範囲の勉強をしています。それから「営業」も骨が折れますね笑。名古屋駅前の旅行社という旅行社を歩き回って頭を下げたり、何十社もの翻訳会社に履歴書を送ったり。いやになっちゃいます。でも例えば十社回ったところでやめてしまったら、それまでなんですよ。足を棒にして訪ねた所から、忘れた頃に連絡をいただけるんです。駆け出しですから、どんなことでもやりますよ。

本当にやりたいこと、自分に向いていることを見つけるのは案外難しいものですが。



につた ともこ さん

1961年愛知県生まれ。三重県四日市市在住。84年立命館大学文学部史学科卒業後、予備校の講師をしながら語学学校に通い、中国語を本格的に学ぶ。ボランティアでの通訳、中国関係の企業での勤務等、実地経験を積みながら勉強を続ける。99年、通訳案内業国家試験に合格、三重県知事の免許を受けてフリーランサーとして開業、活動中。

やはり、意識して、積極的にいろいろなことを経験しないといけないですね。ただ眺めているだけじゃだめですよ。いろいろ触れてみれば、その中には自分と相性のいいもの、神様が与えて下さったものがきつと何かあるはずですよ。でも自分探して、かっこいい作業ではないです。落ちているものを拾って済むならいいけれど、そうじゃない。這いつくばって、苦しい思いをして、掘り出そうとする覚悟が必要です。よく、二年やってだめだったらやめようとか、勝手に時間を区切る方がいらつしやいますが、何でも時間はかかるものです。諦めてはいけない、続けていたら絶対にいいことがあります。環境が整っていないからできないということもよく聞きますが、そんなことはないと思いますよ。私の場合は身を立てようとしたのでかなりの努力が必要だったんですが、そこまででない方でも、自分の得意なことや好きなことを家族以外のものと広い範囲の人たちに提供することを考えたら、楽しい人生になるんじゃないでしょうか。特に女性には「家族と一緒に」自

現在のお仕事の様子をお聞かせ下さい。

はじめは、通訳案内業試験に合格しさえすれば後はもう安泰だろうなんて、お恥ずかしいことを考えていたんですよ。でも、あの合格、もっと言えば私の中国語は単に手段なんです。中国語を介して、あらゆる要求にお応えするのが仕事です。翻訳でも通訳でも、専門外の分野からの依頼がほとんどですから、まずはその内容を日本語でちゃんと理解しなければなりません。仕事をいただくやいなや図書館に走って、工業用語を調べたりと大変です。いまは以前で

■中国語通訳翻訳者【昭59文】

新田 知子 さん

りつめい
インタビュー

分の幸せを見つけようとする方が多いように感じます。それももちろん大事なことですけれども、私は自分のキャンパスに自分の絵を描き続ける、そして家族の絵もみて、たまには一緒に描く、これを理想にしています。

ゴールがないからこそが喜び

中国が開放路線に転換して、日中交流の場がどんどん増えてきそうですから、今後は大いに希望が持てますね。

はい。今年九月に中国からの自由旅行が解禁になりましたので、市場は明るいんです。いま住んでいる四日市や名古屋近辺では、工場見学の案内の仕事も多いですし、技術分野の翻訳もよくやらせていただきます。これからが楽しみです。中国は現在すごい速さで変化しているので、毎年新しい概念ができて、それを表す新語ができていきます。本当に刺激的で面白い。最終的には国際会議などで高度な同時通訳ができることを目指したいと思っています。五年前、北京で開催された世界女性会議に参加したとき、私は現地の人と話して南方出身の中国人だと間違われました。まったく感動したといっているほど嬉しかったのですが、その後通訳案内業試験に合格するまでさらに四年かかりました。そしてゴールだと思っていたところがスタートだったとわかり、また新しく歩き始めています。いつまでたっても終わりがありません。でもこれが逆に嬉しいんです。来年二度目の成人式を迎えますが（笑）、三度目が来るときも元気で輝いていたと思います。

通訳案内業国家試験は、合格率がほんの数%と言われる。合格すると都道府県知事から免許が得られるが、中国語で登録し、現在活動しているのは全国で200~300人程度。わずかな数である。

中国との縁がどこにあったのか、そもそもなぜ第二外国語に中国語を選んだのかもわからない。ただ、入学直後に数ヶ月間だけ在籍した探検部では、先輩にやりたいことを問われて何気無しに「中国へ行きたい」と答えていた。その後、観光事業研究会の門も叩いた。通訳案内・翻訳という現在の仕事との接点が確実に立命館での経験の中にあった。日本史学科に入学したものの、肌に合わずにくすぶっていた新田さんは、この時期水面下に甚大なエネルギーを溜めこんでいたわけだ。

卒業後の、目標への一途な邁進ぶりには驚かされる。夫君（林 満さん：昭53法）の献身ぶりも相当なものでは？と、やや古臭い質問を投げかけたところ、「中国には『天の半分は女性が支える』』という言葉があります。我が家では結婚当初から私が通常名乗る姓は旧姓のままですし、お互いができることをするのが当たり前です」とのお返事。自立しあった夫婦の理想的な関係がさらりと温かく語られ、脱帽した。

大学1回生の時に生協書籍部で購入したという中日辞典はボロボロになり、中の線引き、書き込みで全く余白がなくなっている。「初心に返らせてくれる友」そして「戦友」でもあるそうだ。

海浜砂丘と失われた川原の狩蜂たち

立命館大学理工学部教授 遠藤 彰

■えんどう・あきら 1977年京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士（京都大学）。81年本学理工学部に着任、93年教授に。専門は動物生態学。

「水たまりに棲む小さな生物間の化学戦争」では、毒性や誘因性をもつ化学物質の分析を通して生物たちの相互作用を眺めることで、ミクロな世界ももっと身近に的確に理解できることを紹介した。少し難しかったかもしれないが、これは環境というものをきちんと考えるうえで、たいへん重要な視点である。多くの方が日ごろあまり考え及ばない小さな生物の世界へ眼を向けながら、水辺とわれわれのかかわりについて、ささやかに、しかしより本質的に考えてみようというわけである。

この特集の最後をつとめた私の話を書くように依頼を受けたが、講座當日、狩蜂たちの活き活きとした姿を、かつてNHKの「地球ファミリー」で放映した（その編集と解説に私がかかわった）「空中のハンター…カリバチ」のビデオで紹介した。残念ながら、それにはまざる記述はできない。それはまた

なり人間の環境の問題へと転じたくなものである。いや、その点はじっくり冷ややかに指摘したいが、その背後で失われた狩蜂たちとそれをめぐる多くの無名の生物たちの楽園についてまずは語りたい。というのも、河川の水生昆虫を調べている生態学者などは河川工事や河川管理の問題点をずっと指摘してきた。しかし川原の狩蜂のことを憂いた人はほんとうに少数派、いや岩田さんただ一人だったと言ってもよいくらいである。これは蜂などが、まあ世間では、必ずしもチョウやトンボのように親しみをもって受け入れられていないという事情もある。刺されると怖い、できるならつきあいたくない虫であると思われるからかもしれない。狩蜂の研究者もまだごく少ない。しかし、川原にいた多くの狩蜂たちは、眺めて飽きない多彩な行動をすることでは、他に類を見ないおもしろい虫たちであり、むしろひっそり狩りをして巣をつくり、生活している。こればかりは映像で眺めて欲しいところ。そのうえで、依然として好き嫌いはあるにしても、狩蜂たちとそれをめぐる多くの虫やクモたちに対してわれわれがしてきたことへの、見直しを促したいところである。それでも、正直言って、今となっては失われた狩蜂たちの楽園＝川原の復活は至難である。遅ればせに河川法が改められ、建設省も生物を考慮した河川管理を試みはじめた。技術と資金さえあれば、かたちばかりの「回復」はまだ可能だろう。しかし、肝心の狩蜂たちの個体群の源が壊滅している、復活は望めない。この間の除草剤をはじめとする農業の濫用も、かなり減ったとはいえまだ無視できない。そして残された海浜砂丘も、風前の灯火。私の知るかぎりでもここ二〇

去る六月の『土曜講座』は「水辺の小さな生き物たち」という特集企画で、ま

ず京都大学生態学研究センターの遊磨正秀さんに「ホタルと小魚から身近な水辺を考える」と題して口火を切っていた。いた。その内容については七月に出版された遊磨・生田さんの共著『ホタルとサケ…とりもどす日本のシンボル』（岩波書店）などを参照されたい。つづいてお願いした理工学部の同僚、今村信孝さんの

の機会ということにして、話題提供した核心のみを語ることにしたい。

海浜の砂地という、海には近いが、日中はドライでかなり高温になる場所に巣をつくるさまざまな狩蜂がいる。砂漠ほどではないが、かなり過酷な環境である。磯や浜なら海産生物は多彩だが、海浜砂丘となると不毛の印象を与える。森のただなかや、もっとウェットなところで生活する虫たちなら馴染みのものも多い。砂丘や砂地のような不毛の地をわざわざ好む虫がどうしているのか。その理由は自明ではないが、砂の上はアリなどの天敵が少なく、砂のなかは卵・幼虫の巣としてカビやバクテリアの脅威から免れていることなどが考えられる。ともあれ、海浜砂丘は、狩蜂をはじめとして他にはあまりいない生物たちがそれなりに固有の関係のなかで生きている場所である。こうした砂地の形成はじつは雨水にはじまる水の流れと密接な関係がある。狩蜂のもうひとつの故郷は、河川の砂交じりの川原である。ところが、この「楽園」はもうほとんど失われている。狩蜂研究の碩学、今は亡き岩田久二雄さんの一九三〇年代の若き日のフィールドは、『自然観察者の手記』（朝日選書）にも記されている、大阪池田の猪名川中流の川原であったが、これも今はない。私の遅い出発は、京都北白川の瓜生山の山麓。ここは風化花崗岩の里山で、かつての北白川扇状地を彷彿させる場所だったが、ベッコウバチ類やハナダカバチをはじめ意外に豊富な狩蜂に出会うことができた。その後、本学に来てから、夏休みを集中利用できることもあって、夏の短い札幌の豊平川中流上部の川原まで出かけて一〇

年余の変貌はすさまじい。

『京都の昆虫』（京都新聞社）でも少し触れたが、一九七六年、最初に丹後の箱石浜を訪れたとき、はじめて見る狩蜂の種類の多さに私は興奮した。それまで文献でしか知らなかった蜂たちにつきからつきに出会う。個体数も並外れて多かった。砂の斜面だけでなく、クロマツの林床にも蠅や蛇を狩るハナダカバチの巣が踏み場所もないく

▼京都・丹後の箱石浜。1970年代の風景。



ヤマトヌミベッコウ。泥棒相手を待っているところ。

らいにあったし、海浜植物の豊富な前浜にキアシハナダカバチモドキという幻のという形容詞をつけてよい、超希種が目の前で茶色のバツタを運び込んだ。地中のコガネムシの幼虫に捕食寄生するツチバチ類のオスなどは、もうただ網を振るだけで入ってくるありさま。ハマゴウの花にはトラルハナバチとハキリバチがいくらかでも見られた。ベッコウバチ類の個体数も多く、コモリグモなど徘徊性のクモを狩るアカゴシベッコウは近くに同時に何匹も歩いていた。その後を追っているヤマトヌミベッコウを見たのも、それが最初

年ばかり調査した。そこもすぐ下流にダムがあり、ぎりぎりに残された川原であった。

さて、とりわけ六〇年代以降、この国の環境がどう変貌したかに想い至れば、川原喪失の経緯を了解できる。河川改修にかかわる堤防・護岸工事、洪水予防としての河道の直線化、河川敷の有効利用と称してのゴルフ場・グラウンド建設など、さらに上流での大型ダムや砂防ダムの建設、そしてなによりもコンクリートの素材として川砂を徹底採取した結果、この国から砂や砂利を含む川原というものがほとんど姿を消してしまった。いや土木工事の粗暴さを責めるだけでは済むまい。京の都にしてから庶民文化が河原に発して町をつくり、あれこれ経緯して（京都の社寺の蜂については、拙稿「狩蜂たちの京都」『風の散歩道』（京都新聞五月一七日）参照、川原の狩蜂たちの「小さな文化」をほとんど一掃してしまった。私も、その鴨川沿いの高層住宅に長く住んでいたわけで、直接ではないものの、はからずも川原の破壊に荷担していたかたちである。

じつは、この川原の破壊は、河口から沿岸に形成されていた砂浜の消失にもつながっている。この悪夢の連鎖はキリがないというか、こうした「砂の動き」を時間空間的に追って見ることで、二〇世紀後半の環境の変貌を、より根底的に理解できるのではないかと考えるほどである。これを、稲作からはじまり現代に至る歴史的な文化の変貌の問題として突きつけたときに、この重大さがさらに深く認識されるだろう。しかし、天の邪鬼に見えるかもしれないが、私としては、これをいき

で最後。その後はどこでもお目にかからない。今では激減しているイソコモリグモの巣穴も小さきまま多数あったし、そこを訪れるアオスジベッコウもすぐに見つかった。いつかきつとこでじっくり狩蜂を眺めようと決心したのはもちろんである。こんな調子で、当時の情景がつぎつぎと眼に浮かんでくる。失われたものへの追憶はいつい大袈裟になりがちだが、こればかりは「淡々とした事実」である。

ところが、札幌の調査を終えて一五年後に訪れた箱石浜は、無惨であった。増えたのは漂着物と海水浴客由来のゴミの量。海浜植物もスタスタで、侵入を禁じられているはずの四輪駆動車の轍が絶えない。川原がダメなら海浜砂丘があると期待していた私も、これにはショックを受けた。それでも、それからキオビベッコウなどの仕事をこの浜でやってきたわけで、昔を知らなければ狩蜂のそれなりに良好なフィールドと思ひ込むこともできたかもしれない。しかしほんとうは、こんなものじゃないのだ。ただ、ここが狩蜂たちの最後の砦であるという認識にはかわりない。リゾート開発がバブルで頓挫してもこのありさまで、それも一向に好転しそうにない。

砂好きアンモフィリックな蜂たちと、砂を固めた近代都市の空間に住んでいるわれわれは、このままではとても共存できそうにない。はじめは「意図せざる」であったかもしれない、しかし今となっては「本意ながら」と言いつつ、蜂たちの「楽園追放」は、じつはわれわれ自らの「文化的失楽園」を意味しているのではないか。水辺の砂地で、少なくなった蜂たちを眺めつつ、そう思う。



健康と楽しみを求め、自転車で

二〇〇〇年

日本一周・一万キロに挑戦

荒川 武さん
(株) 京都紋付 会長

昭33理工

大正四年創業しました家業の京

黒紋付染業も、伝統産業を担う企業として大きく発展させることが出来ました。その間長年に亘り、機械化と技術開発に追われる毎日でした。仕事が好き、会社が大事とはいえず、仕事ばかりの人生も寂しい。何か楽しみを見出さねばと思っていた時、偶然の出会いからソフトテニスを始めることになりました。人並みの体力をつけ、テニスもしたい、健康にもなりたいたいという思いから、今日まで二十数年間、城陽市の自宅から京都市の会社まで二〇キロの道程を自転車通勤し、電車の時は三〜四キロ手前で下車し徒歩で通い、体力の強化に努めました。

五一才の夏、福井県三国町で行われたテニスの合宿に参加しました。当時は毎日一〇時間以上も仕事に従事し、往復四〇キロの道程を自転車通勤していましたから、一日掛りで三国町位なら、と軽い気持ちで早朝自宅を出発しました。琵琶湖の湖東廻りで向かったため、距離は一九一キロもあり三六度の炎天下で疲労困憊。帰路はJRと一度は決心しましたが、翌日には元氣回復！二泊三日の合宿を終え、予定どおり帰るも自転車に乗って夏の越前海岸を楽しみ、敦賀

市では美味しい魚を食しての一泊となりました。この旅で味わった風を感じてのサイクリングの爽快感、満足感、達成感が、私に自転車の楽しさを教えてくれました。在学中は写真研究会に所属していましたが、長らく写真からも遠ざかっています。三国への旅は写真への思いも同時に掻き立たせました。「そうだ！自転車での日本一周も夢ではない。写真を撮りながら走ろう！」と決心しました。

北海道、本州、四国、沖縄の一周を果たした後、「二〇〇〇年・日本一周・一万キロ！」の最後のステージとして九州に残っていました。別府で本年五月に「立命館学園創立一〇〇周年記念APU開学式典・校友大会」が行われることを会報で知り、ここへの参加を兼ねて一万キロ走破を達成しようと思決めました。お陰をもちまして、ついに一三年間に至る一万キロの旅を終えることが出来ました。お世話になった西海橋コラソンホテルから、完走を祝う暖かいメッセージまで頂き、共に打ち上げの美酒に酔ったものです。

一三年間の旅は、雨の日、風の日、灼熱の日、厳寒の日、関節痛、痺、自転車盗難、故障、宿泊場所等いろいろな困難もありまし

たが、それらを克服出来たのも、細やかな人情溢れる人々に助けられたお陰です。お会いした各地の方々、そして疲れきった心身を和ませてくれた日本の美しい自然に感謝するばかりです。

今、一〇二三・五キロを終え、人生に於いて大切なものは何か、それは、楽しさを求める心、健康を宿す「身」……心身のありようではないかと思っております。私はテニスの楽しみを覚え、継続し、その延長線上で自転車を知り、日韓ソフトテニスの交流を行い、ジュニアソフトテニスの指導もさせて頂いております。ひとつの楽しみを持つことが、より多くの楽しみにつながりました。

IT革命など気ぜわしい時代にこそ、時代に流されず、ゆつくり歩むのも良いことでは無いでしょうか？日本一周を終えた今、日本ウォーキング協会の「伊能忠敬ニッポンを歩こう」を新聞で読み興味をいだいてるところです。いつまでも「若い心」を失わず、楽しさに挑戦出来ればと思っております。



▲日本一周ゴール地点 西海橋コラソンホテルにて (佐世保)

立命館 秘話

a secret story

8

吉田 幸彦 (昭和32卒)

元(学)立命館常務理事・現(学)池坊学園常務理事

広小路キャンパスに清心館(文学部棟)が竣工したのは、私が卒業した一九五七(昭和三〇)年の三月である。その清心館の地階に、とてつもなく大きくて贅沢な大食堂と喫茶・グリルが誕生した。大食堂は四〇〇を越える席数、地下とはいえ南北に幅広くドライエリアを配し、建物に合わせてブルーと白で配色された壁面とインテリアは明るく清々しく、まさに「清心館」というにふさわしいものであった。喫茶・グリルは席数一二〇という大きさもさることながら、ウェイトレス・サービスなどとは「学ぶことは喰うこと」といった当時の学生の感覚からすれば贅沢そのものであった。

誰が言い出したものか、「東洋一の学生食堂」などと評判になった。「学食」といえば、狭くて汚くて、安からう不味からう、とにかく喰えさえすればよいという時代であった。当時の他大学の「学食」の水準をはるかに越え、日本一であることは間違いないかった。日本一ということでは東洋一ということでもあったろうか。否という、当時の総長末川博先生を訪問されたある中国の要人が、わが国にもこんなに立派な学生食堂はないといったのがはじまりだと、したり顔にいう学生もあって、この伝説は定着した。

大食堂と喫茶・グリルは、大学・学生・教職員の三者の代表による食堂管理委員会により運営されていた。管理委員会が母体となつて、一九六二(昭和三七)年に生活協同組合が誕生するのだが、その翌年縁あって私は生協の専従職員となった。

一九六五(昭和四〇)年、

グリル“クラルテ”命名裏話

いわゆる学園の第一次長期計画に沿って経済学部・経営学部が衣笠に移転した。その拠点校舎となった以学館地階にも、清心館食堂を上回る大食堂と喫茶・グリルが完成した。そこでこれを記念して、清心・以学両館の喫茶・グリルの名称を公募することとなった。かくてグリル“クラルテ”(清心館と“レゾン”(以学館が誕生した。

この公募は私の提案で、私にはかねてよりクラルテの腹案があった。クラルテ(仏語で光明)とは、第一次大戦後に作家バルビュスが提唱した知識人による「世に光を」という国際的な平和運動である。その機関誌にはロマン・ロランやゴッリキーなども寄稿した。私は匿名の学生で応募し、これが入選となった。実はこの私のたくらみは、当時の生協専務理事竹内欣氏の知るところであつて、永年平和運動に取り組んでこられた氏の満腔の支持があつたのである。公募の前に名称は決まったもの同然だったのである。たしか入選者の賞品は図書券であつたが、この学生が名乗り出なかつたのは当然である。

六〇年代後半に広小路キャンパスに在学した校友諸氏の思い出の片隅には、華やかなウェイトレス嬢のいたたグリル“クラルテ”もきつと生きていることだろう。今は“クラルテ”も“レゾン”も共にない。いささか淋しい。「立命館秘話」と言うには裏話めいて、いささか忸怩たるものがあるが、昔話に免じて勘弁していただく。

クラルテ内部



清心館。入口左側地階にクラルテはあった。



香川県校友会



今年度の総会は、六月三日（土）リーガホテルゼスト高松で一四〇余名が集い、盛会となりました。
総会には岩井忠熊名誉教授、久岡校友会副会長、志垣校友課長に御出席いただき、講演並びに学園の近況をお話しいただきました。新会長に村上良一氏（昭33法）を選出し、昭和四十七年から二八年间にわたり支部長を務めていただいた田村貞光氏（昭15専高商）には校友会より感謝状が贈呈されました。
懇親会も久しぶりの開催ということで、和氣満々と進みました。世界的な彫刻家流政之氏（推薦校友・初代総長中川小十郎氏子息）や一〇名余りの女性も含め、幅広い年齢層の校友たちが旧交を温めました。五月二〇日の立命館学園創立一〇〇周年記念式典へは約三〇名がバスツアーで参加しましたが、その際の様子も話題に上りました。県校友会の名簿も約二〇年ぶりに発行しました。今後は毎年総会を開催し、終生消え去ることのない「立命館大学」を背負う校友のより一層相互の親睦を深め、更に母校の発展にいささかでも寄与しようと呼びあった会となりました。

〔昭40理工 酒井成徳・記〕

ウリ同窓会

立命館大学ウリ同窓会は、立命館大学に学んだ朝鮮人・韓国人が集まって会を構成しています。祖国の分断や、在日の意識の多様化の中で難しい問題もありますが、「同窓生の親睦と母校の発展に寄与する」とことを会の目的として、地道に、息長く活動が続けてきました。今年六月一七日（土）に開かれた第三二回定期総会でも、若いOBと半世紀以上に卒業したOBが同じテーブルにすわり、仲良く歓談する光景が見られました。年配のOBほど母校に対する思いが強いようです。末川博先生を始めとする歴代の総長が、苦学する朝鮮人学生にそいでくださった温かいまなざしを多くの先輩から聞かれます。
会の活動としては、会誌「玄海灘」を不定期に発行しています。またウリ同窓会学業顕彰金を創設し、母校に学ぶ同胞学生を対象に一〇年間、述べ一〇〇名に対して奨学金を支給しています。その他、日常的な活動として、年に一度の定期総会や新年会、ゴルフコンペなども行っています。



〔昭50経済 李 建徳・記〕

応援団OB会

去る七月八日（土）京都 都ホテルに於て立命館大学応援団創団五〇周年記念大会を開催。全国各地よりOB諸兄が出席されました。来賓として長田総長、校校友会副会長、鴨脚慶夫体育会OB会会長、同志社大学応援団OB会はじめ関係大学のOB、現役の皆さん方総勢約三〇〇余名が御来会。本当に楽しい一刻を過ごしていただきました。御家族の方々と友人、知人の方々も多く参加され、なかには卒業以来初めてといった人も見受けられました。
この大会を成功させるため、一年半前から準備に入り準備委員会・実行委員会のメンバーに積極的に活動していただき企画を進めました。大会は大成功だと自負しています。が、多くの方々から全国組織結成の希望もあり、私達はこれから校友会と同じように全国各地での交流を進めるべく準備に入りつつあります。今回のこの大会を通じて「校友っていいな」「応援団OBっていいな」の想いを一層強く、深くし、学校の発展に少しでもお役に立つことができればと思っています。
全国八〇〇人のOBの皆さん、今後も交流を深め元気で活躍なさいますことを心よりお祈りいたします。北村芦屋市長さんには特に御多忙のなか御来会賜りましたこと誌面を通じて御礼申し上げます。

〔昭26法 村井一雄・記〕

立命京都観光の会

当会は、京都とその周辺で観光事業並びに関連業務に従事されている校友が親睦をはかり、情報交換し合おうという会である。
去る七月一九日（水、第八回総会をからすま京都ホテルにて開催。決算・事業報告、役員改選などを承認のあと、特別講演会に移った。毎回、母校で教鞭を執られている先生のご専門の立場からの京都論、京都観光論を拝聴し、多大の感銘を受けている。今回は山崎正史先生にお願いした。先生は都市の観光資源保全のための提言として、伝統の木造建築を造れるように今の建築基準法を一部改正すること、眺望視線の保護、文化財周辺に景観地区を設定することとを挙げられた。今の制度では、例えば寺院の修理や建替が不自由であり、あの茶室でさえ天井が低いので不可とされる。そして大文字送り火や八坂の塔も見えなくなる、といったことである。その他京都の祭への提案も面白かった。
京都に住み、暮らしを立てている人は、皆何らかの形で観光にかかわっています。校友諸兄姉で関心のある向きは、事務局（電話〇七五一二五五一三三四）へお問い合わせ下さい。

〔昭32文 西村満夫・記〕

新潟県校友会



二〇〇〇年度総会は七月二日（日）、ホテル新潟で約四〇〇人が参加して開かれた。前年の総会への出席が航空会社のストライキでかなわなかった大南正瑛前総長の招聘がようやく実現、特別講話をいただいた。一般聴講者も交じる中、先生は「レオナルド・ダ・ヴィンチに人生を学ぶ」のテーマで熱く講演。「感動と好奇心が人生を豊かにする源」「ダ・ヴィンチのように」芸術的価値と物づくりの価値を統合することが求められる時代だなどの講話は、校友らに深い感銘を与えた。
当会は約八五〇人の校友を擁する。うち三〇〇人前後が常時コンタクト可能で、総会には五〇人ほどが顔を揃える。五月に別府市で行われた学園創立一〇〇周年、立命館アジア太平洋大学開学記念式典には七人が参加するなど、ままとりの良さと機動性を誇っている。総会に欠かせないのが江川功さん（昭56経経）の「立命館アニバーサリー」の熱唱。総会に出席した大学関係者を感激させる名曲で、当会では「全校友のテーマソング」と、密かにメジャー化を狙っている。

〔昭47法 貝瀬正泰・記〕

富山県校友会



富山県校友会は会員総数一四〇〇人。石川・福井の各県校友会とも交流しながら、ただいま懸命に活動を展開中。今年の主な活動を以下挙げる。
今年四月から、毎月第三金曜日の午後七時より「立命館サロン」を開催。名鉄トヤマホテル二階「ルーベン」に、毎回十数人が集まっている。校友諸氏の積極参加を期待します。五月には、学園創立一〇〇周年記念APU開学式典・全国校友大会に参列。五月一日から二泊三日でツアーを実施。坪井副会長（現・会長）をはじめ二三名が参加した。七月三日（土）には、富山県校友会総会を開催。役員改選の結果、新会長に坪井新一郎氏（昭33理工・呉羽セラミック顧問）を選出した。講演会では松田浩杜さん（昭53産社）が「熱気球に魅せられて」と題して熱弁をふるい一同感動。懇親会は、立命館大学父母教育後援会と合同で行い、一二〇人で大いに盛り上がった。さらに「第一回関西大学OBゴルフ大会」では見事三連覇、五度目の優勝となった。

さて、このたびホームページを開設したので、あわせてお知らせします。

〔昭38経済 小川輝久・記〕

<http://www.egroups.co.jp/group/ritsumeikan-toyama>

ALL立命館交流パーティーin北海道



去る八月二六日（土）、立命館慶祥高等学校・中学校において、立命館創始一三〇年・学園創立一〇〇周年・立命館慶祥中学校開校を記念して、「ALL立命館交流パーティーin北海道」が開催された。当日はあいにくの小雨模様で、会場を急遽雨天練習場に変更して実施。立命館大学北海道校友会、立命館慶祥高等学校同窓会、立命館慶祥中学校・高等学校保護者会、同教育振興会の関係者、そして立命館慶祥中学校・高等学校各校の生徒や関係業者等総勢約六〇〇名が参集した。アトラクションでは立命館アジア太平洋大学の留学生や立命館慶祥高等学校海外提携校の生徒や引率教師が出演するなど、国際色豊かな雰囲気の下、立命館アイデンティティを相互に高めあった。約二時間の歓談・交流の後、高木校友会本部副会長からリトアニア、カンボジア、中国、韓国、日本の各国語による乾杯発声が高らかに行われ、閉会となった。

〔校友会事務局・記〕

Family Card

[立命館オリジナルグッズ]

通信販売

立命館創始130年・学園創立100周年
立命館アジア太平洋大学開学記念

※立命館ファミリーカード会員の方は、割引の特典がございます。

タイムマシークロック

NEW

今までの概念にない新しい方法で、時を伝える針のない時計です。時・分・秒がそれぞれ違った動きをみせるセンスあふれる一品です。



■サイズ：
195×150×60mm

価格
¥2,800 (税別)

ムービングギアクロック

NEW

時を刻んでいく様子がわかるシースルータイプの時計にさりげなく Rits マークをあしらいました。場所を選ばず置いていただけるシンプルなデザインですので、お部屋のインテリアに最適です。



■サイズ：100×272×72mm

価格
¥3,300 (税別)

セラミックボールペン

NEW

ペン先のセラミックボールがスムーズな書き味を実現。高級感あふれる金属ボディに立命館マークをあしらいました。
太、細の2種類からお選びいただけます。



(太) ■サイズ：全長 141mm
直径 φ13mm

価格
¥1,500 (税別)

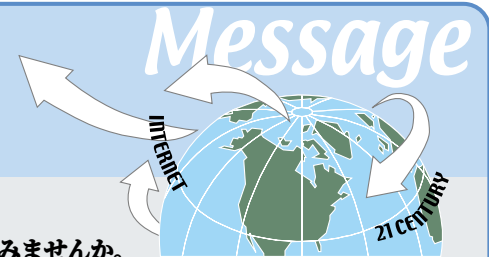
(細) ■サイズ：全長 138mm
直径 φ10mm

価格
¥850 (税別)

その他の商品のご紹介

商品名	数量単位	価格 (税抜)	備考 (お申し込み時に明記してください)
ダンロップ製 ゴルフボール	1ダース	3,900円	
イルカペン&絵葉書セット	1本&5枚セット	1,200円	絵葉書：①Rits ②APU
APUロゴ入りTシャツ	1枚	1,800円	紳士サイズ：M・L
APUロゴ入りトレーナー	1枚	3,300円	紳士サイズ：M・L
ゴルフグローブ (カラー／白、黒)	1枚 (片手)	2,300円	サイズ：19cm～27cm 右きき用／左きき用
ウッドボールペン&シャープペン	1セット	2,800円	
オリジナル風呂敷	1枚	2,000円	
応援歌・校歌入りオルゴール	1個	55,000円	
タイクリップ&カフリンクス	1セット	16,000円	
つづれ織りブックカバー	1個	2,300円	
西陣織フォーマルネクタイ	1本	4,500円	
井堂雅夫創作 木版画「立命館」	1枚	5,500円	
井堂雅夫創作 木版画扇子	1本	3,500円	絵柄：①衣笠 ②BKC

立命館校友のみなさん
立命館ファミリーカード加入のみなさん
21世紀はどんな世界になるのでしょうか



「IT革命」が生活の隅々まで浸透してくる時代といわれています。

このような時期に活躍できることが楽しくなるような、そんな夢を共に育ててみませんか。

私どもクレオテックは、学校法人立命館のファミリー企業として、これまでに校友会報「りつめい」の誌上においてファミリーカード通販などでいろいろなお付き合いをさせていただいています。この企画の趣旨は、卒業生の方々と立命館の絆をより豊かなものへ発展し、大きな立命館ファミリーを育てていきたいとの思いから始めたものです。これまでも立命館グッズの販売などでご愛顧頂いておりますが、残念ながら一方通行の情報提供という限界を越えられていません。立命館校友という大きな枠組みとアイデンティティを共に活用できる、そんなシステム作りが私どもの夢です。

幸いにして情報化の技術革新が、夢実現に向けて大きな後押しになってきました。皆さまの中には、既に実現されている方もあるかと存じますが、校友会活動そのものの情報化にタイアップして、インターネットによる立命館ファミリーの仮想空間、情報の共有社会の構築をめざしたいと思います。まだ構想の段階ですが、最初に、校友のみなさまの経営する会社や個人が、手軽に参加できるインターネットモールを構築してはと考え、研究を始めております。既に各方面からたくさんのアイデアや検討すべき事項の提言を頂いておりますが、この構想は参加していただく方々の創意が何よりも大切であると思いますし、現実的なメリットがなければ成長しないと思います。

出来る限り多くの皆さまのご意見を頂戴し、研究を深めてまいりたいと存じます。
ご意見やご提言がございましたら、ぜひクレオテックまでお寄せください。

株式会社 クレオテック
代表取締役 小林 義夫

お申し込みのご案内

お申し込み方法 ハガキまたはファックスに、住所、氏名（フリガナ）、電話番号、立命館ファミリーカード会員番号、カード有効期限、商品名、サイズ、数量、金額、お届け先をご記入のうえ（株）クレオテックまでお申し込みください。

お支払い方法について 立命館ファミリーカード会員の皆様は、カード払いがご利用いただけます。※お申し込み時に必ず明記してください。
一般の皆様は、商品到着後「郵便払込み」にてお支払いください。
値段は税抜き価格です。消費税は別途申し受けます。

お届けについて 商品は、当社がお申し込みを受け付けてから約2週間でお届けいたします。

送料について ご注文毎に1カ所のお届け先につき、送料を申し受けます。

■お申し込み・お問い合わせ先

〒603-8353 京都市北区平野上八丁柳町28

(株)クレオテック「立命館ファミリーカード」係

TEL. 075(463) 9197 FAX. 075 (465) 5697

京都の文化・芸術に触れてみませんか？

1999年4月に発足したアート・リサーチセンター（以下ARC）では、研究プロジェクトが8から12に拡大すると共に、コレクションも充実し、各企画も継続的に展開してきています。本学関係者のみならず、一般に利用できる内容も豊富化してきています。

そこで、ARC副センター長の赤間助教授に現在の取り組み状況についてお話を伺いました。



赤間 亮 助教授（国文学・演劇学）



エチオピアの音楽や舞踊を研究しています。

⑧ 源氏物語サイバープロジェクト

（文学部 伴教授）
清涼殿の三次元仮想体験CD-ROM作成や源氏物語本文の研究のためのデータベース構築等を行っています。

次に、今年度新たに発足したプロジェクトは次の四つです。

① 京都映像文化「デジタルアーカイブ・マキノ・プロジェクト」

（文学部 富田助教授）
マキノ映画のデジタル・アーカイブ化や「マキノ」誌のデジタル復刻等を行っています。

② 京都の伝統工芸技術の民俗考古学的検討プロジェクト

（文学部 木立助教授）
伏見人形、京焼、鋳造など、京都の伝統的手工業の技術を調査・研究しています。

③ 日本文化における近世的イメージ研究プロジェクト

（文学部 赤間助教授）
絵入版本コレクションとしては最大級の江戸文芸コレクションをデジタル化し、江戸期の表現技法等について研究しています。

④ デジタル環境下の芸術研究プロジェクト

Projects and Collections in A R T R E S E A R C H C E N T E R

ARCで現在どのようなプロジェクトが取り組まれているのですか？

▶ 昨年度から取り組まれているプロジェクトは、次の八つです。へ（ ）内は代表者

① 京都演劇「デジタルアーカイブ・プロジェクト」

（文学部 赤間助教授）
主に舞台写真やシナリオ、浮世絵等のデータベース化を行い、一部公開しています。

② 無形文化財の保存とデジタルアーカイブ・プロジェクト

（同右）
京舞井上流の舞・音曲や能、壬生狂言、人形浄瑠璃等について研究しています。

③ モーションキャプチャ・プロジェクト

（理工学部 八村教授）
舞踊等における人間の身体運動情報のデータ処理システムについて研究しています。

④ インタリジェント・デジタルアーカイブ・プロジェクト

（政策科学部 稲葉助教授）
インターネットにアクセスしたユーザーの知識を吸収する「UNCHIKU（蘊蓄）」システム等を開発しています。

⑤ ゲームアーカイブ・プロジェクト

（政策科学部 細井助教授）
任天堂やセガサターン等のゲームソフトのアーカイブ化や人材育成システムへの活用等の研究を行っています。

⑥ 総合芸術のファカルティ・ディベロップメント研究プロジェクト

（産業社会学部 仲間教授）
教育と社会を重視した芸術研究の新しい論点の模索や国内外のメディア（アート）研究所の事例調査・分析等を行っています。

⑦ エチオ・ジャパン・プロジェクト

（産業社会学部 遠藤教授）

（文学部 川嶋教授）
デジタル環境下における芸術研究・教育の現状や問題点、課題等を研究しています。

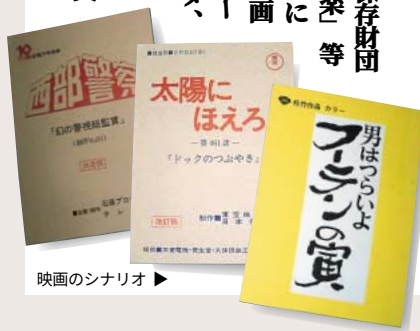
▶ 新たに発足したプロジェクトの特徴点は何？

▶ 実は、立命館大学衣笠キャンパス近辺は日本映画発祥の地であり、今も映画関係者や関連資料が集まりやすいという好条件があります。映画・映像研究の拠点にもなり得るでしょう。また、京都の「匠（たくみ）の世界」の研究や膨大な江戸後期を中心とした林コレクションの研究も特徴的なものとなるでしょう。

▶ モーションキャプチャでは、若い能楽家の片山清司さん、味方玄（しずか）さん等に積極的に協力して頂いており、インターネット上でも能を公開しています。そのことで、新たなファン層の開拓にもつながっているようです。各プロジェクトには、大学院生や学生も参加しており、データ処理や映像関連機器操作等では、優れた人材の養成にもつながっています。また、諸企画や取り組みを通じて人的ネットワークも広がっており、立命館大学にほとんど縁が無かったと思われる方々に関心を持っていただいています。

▶ ARCではこういったコレクションを所蔵しているのですか？

▶ ①片山家能楽保存財団所蔵京舞・能楽等の映像や、②五万冊におよぶ「テレビ・映画のシナリオ」、③「ゲーム」のリストデータ、④今春寄贈された「林美一江戸文芸コレクション」（江戸文



映画のシナリオ ▶



この間、ARCではどのような企画が行われたのですか？

浮世絵コレクション▼



▲江戸文芸コレクション

芸五〇〇〇冊、江戸風俗二万冊、映画スチール写真等、⑤二〇〇点を超える浮世絵コレクション、⑥「無形文化・時間芸術」ジャンルの一四万枚におよぶ舞台写真等を所蔵し、ARC内でデジタル化しています。そうすることで、研究をはじめとした利用に供することができ、デジタル化にあたり、著作権等の権利関係、フィルム復元手法、公開のレベル設定(①完全公開、②実験運用、③パスワード設定による利用制限、データベース化する場合の構築方法等に留意しています。



▲デジタル化装置

A R T R E S E A R C H C E N T E R



六月には、「春季連続講演会」として、「エジソンの映像に学ぶー映像ジャーナリストを志す若者のためにー」、「一世阿弥「風姿花伝」執筆六〇〇年にちなんで一世阿弥の修羅」、「一八世紀の日本音曲と舞踊ー常磐津を聴く」、「情報芸術論考ーヴィトゲンシュタインを超えて」を開催し、七月には「デジタル環境下の芸術公開研究会」として、「芸術研究とインターネット」、「デジタル環境下のフィルム・アーカイヴ」、「身体動作・運動の立体ビデオ映像化」を開催しました。また、八月には京都文化博物館で片山家能楽保存財団と共催で「能装束・能面展」を開催しました。

今後は、プロジェクト研究発表会や連続講演会、ジンパフエ舞踏団に関する研究会・公演等々を予定していますが、ARCの企画はホームページで随時紹介していますので、是非こまめにご覧頂ければと思います。

●ホームページアドレス

<http://www.arc.sumei.ac.jp/>



最後に、先生の今後の研究の方向は？



もともと歌舞伎等についての文献研究を行っていましたが、ARCのプロジェクトで「時間芸術」に関わるようになったため、研究上では実演の記録や実写映像を重視しています。この一年間で「京都文化の力」を実感しました。京都文化の蓄積はものすごいものですが、しかし必ずしも一般の人々には伝えられていない。そこで、そうした「芸術」と「鑑賞者」をつなぐ仲介役という立場で人間の営みを中心とした芸術を研究していきたいと考えています。

赤間 亮 (あかま・りょう)

[主な著書・論文]

- 「歌舞伎文化の諸相」(共著・'98年岩波書店)
- 「歌舞伎の出版物を読む」(『江戸文学』第14号、'96年)
- 「芝居おもちゃ絵の華麗な世界」(共著・'95年たばこと塩の博物館)
- 「江戸の演劇書」('91年早稲田大学演劇博物館)

異文化間コミュニケーションと 「アジア太平洋地域理解」の新しい取り組み

APU教学部長 仲上 健一
[APUアジア太平洋学部教授／環境経済・政策]



国際教育
最前線

27カ国・地域からの国際学生250名を含む711名の学生が高い志と大きな夢を持って入学した立命館アジア太平洋大学（以下APU）では、国際社会で活躍し得る能力を持つ学生を

育てるために、低回生時において、異文化間コミュニケーションやアジア太平洋地域の理解を目指す基礎演習科目「アジア太平洋地域理解」を設けている。

「アジア太平洋地域理解」の位置づけと目標

APUでは、ケーススタディやフィールドワーク等の「参加型教育」や具体的なテーマを設定して調査・分析を行い、問題の解決方法を提言する「プロジェクト型学習」、「情報発信型学習」を重視している。その基軸となるのが各回生配置の演習科目であり、1回生配当基礎演習「アジア太平洋地域理解」は、①国際学生と国内学生が共に学び合う中で相互の理解を図ること、②アジア太平洋地域における社会または企業を取り上げたトピックを学び、アジア太平洋地域への関心を高め、基礎的な知識を身につけること、③調査・分析・レポート作成・発表・討論など大学での学習の方法を身につけること、を目標としている。

この準備のために、前年度には10回を超える教科研究会を開催したが、開講後も各学部2名のコーディネーターを置き、クラス運営や授業について経験交流等を行っている。

ユニークなクラス運営・授業内容

日本語基準、英語基準でそれぞれ入学し

た学生が混在している中で、担当者の創意工夫により、活発な授業が展開されている。クラス運営にあたっては、学生のまとめ役を2～3名選び、授業やクラス運営のサポートを任せているが、ほとんどのクラスが立候補で決まるなど、学生の積極性が現れている。5月20日に別府公園で開催されたAPU開学祭には、すべてのクラスが模擬店を出店した。また、5月～6月に各クラス毎に合宿を行い、相互理解を深めている。

多くのクラスで日本語と英語で資料を用意し、また、教員の多様な経験を生かした授業を展開している。その他、次のような特徴的なクラスがある。

1 バイリンガル学生がリーダーシップをとり、英語と日本語を交えた討論をリードする中で、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を高め、互いの学び合いを重視しているクラス。

2 言葉や文化の壁を越えたグループ研究を行い、最終的には市民にも参加を呼びかけ「国際文化のタベ」と題した野外ステージでの発表会を開催する計画を立てているクラス。

3 APUの国際的環境を生かし、「異文化と共生」をテーマにキャンパスでのフィールドワークを予定しているクラス。

4 同じ内容の授業を、日本語と英語で1週おきに行っているクラス。

5 出身地域の文化・歴史・産業などをテーマにした発表を全員が英語で行うことにより、情報収集やプレゼンテーション能力の向上を図り、その後、アジア太平洋地域の企業のグループワークを行っているクラス。

6 グループワークを重視し、最終的には「大分県へのAPU学生からの提言」をまとめるクラス。

この科目では、二つの言語を用いてコミュニケーションを図る中で、学生相互が学び合い、理解し合うというまったく新しい試みを行っており、春 semester 終了後に半年間の経験を踏まえて課題整理を行い、秋のクラス運営、授業運営に活かしていく予定である。

新しい試みであるが故に困難もあるが、試行錯誤しつつ課題を一つひとつ解決していくことが、新しい国際教育のあり方を創造することにつながっていくであろう。

Campus Topics

キャンパス＊トピックス
JUNE.2000—JULY.2000

立命館慶祥中学校開校記念式典開催
(2000・6・3)

立命館慶祥中学校が今年四月に開校したが、この度、立命館慶祥中学校・高等学校アリーナにおいて、開校記念式典が開催された。一期生の一二八名は、元氣良く参列者を出迎えた。なお、式典に先立って校舎見学会が催された。



立命館創始一三〇年・学園創立一〇〇周年記念試合

ラグビー記念試合
「立命館大学対慶應義塾大学」
(2000・6・11)
BK Cクインスタジアムにおいて

見方健氏（観世流能楽師）による講演、河村晴道氏による能装束付公開、修羅能「清経」の上演

「一八世紀の日本音楽と舞踊——常磐津を聴く」
(2000・6・17)



「情報芸術論考——ヴィトゲンシュタインを超えて」
(2000・6・30)
講師はメディアアーティスト幸村真佐男氏（中京大学教授）。

二 デジタル環境下の芸術公開研究会
「芸術研究とインターネット」
(2000・7・8)

講師は関西学院大学文学部加藤哲弘教授で、氏が一九九六年に開設されたホームページ「美学の部屋」の紹介やデジタル環境下での芸術研究・教育の現状や問題点、将来の展望等について講演された。



「デジタル環境下のフィルム・アーカイヴ」
(2000・7・14)

講師は本学文学部富田美香助教で、デジタル映像が氾濫する現在もなお

ラグビー記念試合が行われた。試合は三九対四三で、本学ラグビー部は惜しくも逆転により敗れた。参観者は約三五〇〇名。

「硬式野球記念試合——立命館大学対早稲田大学」
(2000・7・1)



西京極球場において、硬式野球記念試合が行われた。試合は八対一で本学野球部が勝利した。参観者は約五〇〇〇名。

京都リサーチパークからの要請を受けて、教育機関においてインターンシップを希望していたエレノア・キムさんをキャリアアセンター、総務課、国際課で研修プログラムを作成して受け入れた。



国際インスティテュート開設記念講演会開催
(2000・6・21)

「フィルム」としての映画芸術にこだわるフィルム・アーカイヴ活動を採り上げ、芸術に対する「アーカイヴ」の基本理念と実践について講演された。



「身体動作・運動の立体ビデオ映像化」
(2000・7・31)
講師は京都大学大学院情報科学研究科松山隆司教授で、人間の動作・運動を長時間で立体ビデオ映像化し表示するシステムが、デモを交えながら紹介された。

育英奨学制度（学部成績優秀枠）給付証書授与式
(2000・7・7)

各学部の成績優秀者（GPA成績上位者一・八％）に奨学金（年間学費の半額相当額）を給付する制度で、さらなる奨学等への奨励を目的とした奨学金の給付証書授与式を両キャンパスにおいて行った。受給者は全学で三七〇名。（新入生に対しては、四月に「特別奨学生」として成績上位大学生一〇六名、大学院生九六名に同様の奨学金を支給している）



地球的視野で考え、行動できる二一世紀に活躍できる国際人を養成するために、衣笠キャンパスにある五学部が共同で今年四月に開設した国際インスティテュートを記念して、以学館二号ホールにおいて、エマニエル・トッド氏（フランス国立人口統計研究学院資料局長）による講演「現代世界をいかに読み解くか——人類学的システムと世界の多様性」を開催。



アート・リサーチセンターの取り組み

一、「春季連続講演会

「エジソンの映像に学ぶ——映像ジャーナリストを志す若者のために」
(2000・6・2)

講師は鈴木昭典氏（株）ドキュメンタリー工房代表取締役。

「一世阿弥「風姿花伝」執筆六〇〇年にちなんで——世阿弥の修羅」
(2000・6・8)



国際言語文化研究所連続講座「複数の沖縄」

「地域自立と石垣島」
(2000・6・2)

講師は中村尚司氏（龍谷大学教授）。



「複眼の琉球弧」

(2000・6・9)

講師は大橋愛由等氏（神戸奄美研究会主宰）。

「アメリカのある風景」
(2000・6・23)

講師は仲程昌徳氏（琉球大学教授）。

「境界のこえかた」
(2000・6・30)

講師は仲里効氏（EDGE編集長）と新原道信氏（横浜国立大学教授）の対論

「沖縄……うたの偏在する（場）」
(2000・7・7)

講師は東琢磨氏（音楽評論家）。

「コンサート「沖縄の風にふかれて」
(2000・7・8)

大島保克氏（石垣島出身の歌手）、

きじむな（学生グループ）によるパフォーマンス。



SPORTS & EVENT

スポーツ・ガイド

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

アメリカンフットボール部

- 神戸大学戦
10月 1日(日) 14:20～(宝ヶ池球技場)
- 近畿大学戦
10月14日(土) 11:00～(宝ヶ池球技場)
- 京都大学戦
10月29日(日) 16:00～(阪急西宮スタジアム)
- 甲南大学戦
11月11日(土) 16:00～(阪急西宮スタジアム)
- 関西学院大学戦
11月26日(日) 16:00～(阪急西宮スタジアム)

硬式野球部

- 近畿大学戦
10月 8日(日) 13:00～(南港中央野球場)
- 10月 9日(祝) 10:30～(南港中央野球場)
- 同志社大学戦
10月22日(日) 14:30～(西京極球場)
- 10月23日(月) 17:30～(西京極球場)

ラグビー部

- 大阪体育大学戦
10月 1日(日) 12:15～(花園ラグビー場II)
- 京都産業大学戦
10月15日(日) 14:00～(宝ヶ池球技場)
- 近畿大学戦
10月22日(日) 12:15～(宝ヶ池球技場)
- 同志社大学戦
10月29日(日) 14:00～(宝ヶ池球技場)
- 摂南大学戦
11月 5日(日) 14:00～(宝ヶ池球技場)

学生のスポーツ&イベント

- 大阪経済大学戦
11月19日(日) 14:00～(花園ラグビー場I)
- 龍谷大学戦
11月25日(土) 14:00～(宝ヶ池球技場)



シドニーオリンピック参加

硬式野球部

山田秋親(法4)

水泳部(シンクロナイズド・スイミング)

磯田陽子(産社4)・江上綾乃(経営3)・
米田容子(経営3)・武田美保・藤井来夏・
米田祐子(OG 井村シンクロ所属)

イベント・ガイド

問い合わせ先：学生センター
075-465-8141

劇団西一風

- 「第40回記念公演」
10月5日(木)・6日(金)
13:30～、17:30～
学生会館小ホール
- 「第40回秋期本公演」
10月26日(木)・27日(金)

13:30～、17:30～
以学館2号ホール

邦楽部

- 「定期演奏会リハーサル」
10月7日(土) 9:00～20:00
学生会館小ホール

フォークソング同好会キークス

- 「ニューフェースコンサート」
10月10日(火)・11日(水)
13:00～、18:00～
以学館1号ホール

ABC ESS(英語研究会)

- 「第11回総長杯争奪英語弁論大会」
10月14日(土) 11:00～18:00
以学館

ロックコミュニケーション

- 「10月定期演奏会」
10月16日(月)～18日(水)
以学館2号ホール

映画研究会

- 「上映会」
10月18日(水) 10:30～19:00
以学館1号ホール

写真研究会

- 「新人展」
10月19日(木)～23日(月)
10:00～21:00 以学館多目的ホール

劇団立命芸術劇場

- 「2000年秋公演」

10月19日(木)～21日(土)(時間未定)
学生会館小ホール

ピアノ研究会

- 「後期批評会」
10月21日(土) 9:00～20:00
以学館1号ホール
- 「秋のピアノコンサート」
10月27日(金) 17:00～20:00
以学館1号ホール

立命漫画研究会

- 「秋のパネル展」
10月24日(火)～27日(金)
10:00～17:30
以学館多目的ホール3

二部軽音楽部

- 「月例ライブ」
10月25日(水) 17:00～21:00
学生会館小ホール

二部美術同好会

- 「秋の展覧会IN2000」
10月25日(水)・26日(木)
12:00～20:00
以学館多目的ホール2

一部軽音楽部

- 「10月月例ライブ」
10月26日(木)～28日(土)
13:00～18:00 学生会館小ホール
- 「11月月例ライブ」
11月27日(月)・28日(火)
13:00～18:00 以学館2号ホール

法友会

- 「第49回末川杯争奪法律討論会」
10月28日(土) 9:00～19:00
研心館

学生のスポーツ&イベント

陶芸部

- 「全体展・二回生展」
11月25日(土)～12月1日(金)
10:30～18:00
以学館多目的ホール1・2

写真部

- 「2000年冬期展」
11月27日(月)～12月1日(金)
時間指定あり 以学館多目的ホール3

落語研究会

- 「34期引退興行ならびに36代目安心亭立命襲名披露」
11月30日(木)・12月1日(金)
16:30～19:30
学生会館小ホール

(BKC) 美術研究部

- 「学内展」
10月2日(月)～6日(金)
12:00～20:00
ユニオンホール

(BKC) ライフサイエンス研究会

- 「おもしろ科学実験」
10月7日(土) 9:00～
リブスペース

(BKC) 新演劇研究会(月光斜)

- 「卒業公演」
10月19日(木)～21日(土)
(時間指定あり) ユニオンホール

(BKC) I部写真研究会

- 「新人展」
10月25日(水)～27日(金)(時間未定)
ユニオンホール

(BKC) マジックプレイヤーズ

- 「第15回発表会」
11月27日(月)・28日(火)
12:00～17:00 ユニオンホール

(BKC) 映画部

- 「自主制作映画上映会」
11月30日(木)・12月1日(金)
9:00～ ユニオンホール

主な取り組み結果

将棋研究会

- 「第56回学生名人戦」(5.27)
加藤幸男(理工1)初優勝(学生名人)
鰐渕啓史(法4)4位入賞

立命館大学バトントワリング部

- 「関西バトンコンテスト」(6.26)
団体の部上級優勝 個人の部で5人が金賞
- 「第21回世界バトントワリング選手権大会」(8.3～13)
日本代表に野口英知(産社3)

映画部

- 「第2回インディーズムービーフェスティバル」
山口洋輝(文4)監督作品「深夜臓器(しんやそうき)」がグランプリ

立命館大学かるた会

- 「第53回全国かるた競技福井大会」(6.11)
齋藤裕理(法3)A級優勝(大学生、社会人総合の大会で優勝・日本一)…「第56回全国競技かるた学生選手権大会」(3.27)でもA級優勝

囲碁研究部

- 「関西大学囲碁選手権」(6.18/25)
リーグ2位入賞

法律相談部

- 「(一般市民対象)夏期移動法律相談」
(8.5～6 大分県別府市ビーコンプラザ)開催。

◎ 第43回 世界報道写真展2000



【会 期】9月27日(水)～10月15日(日)
※10月2日(月)・10日(火)は休館
【開館時間】9時30分～16時30分(入館は16時まで)
【参観料金】大人500円/中・高生250円/小学生150円
(常設展もご覧いただけます)

今年で43回目となるオランダの世界報道写真財団主催「世界報道写真コンテスト」で入賞した優秀な報道写真を展示いたします。新世紀の到来を目前に控えたいま、世界の報道写真家たちの作品を通して、現代社会の様相をリアルに伝えます。

■ 立命館アジア太平洋大学 (APU) でも開催いたします。

【会 期】10月18日(水)～29日(日)
【問合せ先】APUネットワークオフィス TEL. 0977-78-1114

◎ 特別展「戦争と芸能」



【会 期】10月26日(木)～11月16日(木)
※月曜日および祝日の翌日は休館
【開館時間】9時30分～16時30分(入館は16時まで)
【参観料金】大人300円/中・高生250円/小学生150円
(常設展もご覧いただけます)

芸能(古典芸能・大衆芸能・演劇・音楽など)に戦争が与えた影響を探り、戦前から戦中そして戦後へと時代が激しく移り変わるなかで芸能がどのように変化したのかを資料・写真・パネル等で展示いたします。

■ 10月29日(日)に記念講演会を予定しております。
詳細はお問合せ下さい。

立命館大学国際平和ミュージアム 京都市北区等持院北町 TEL. 075-465-8151 * お車でのご来館はご遠慮願います。

2001年度大学院社会人入試 説明会のご案内

立命館大学大学院では、前期課程の全研究科で社会人入試を実施し、社会人の積極的受入を進めています。このたび、右記の日程で大学院社会人入試説明会(学部と合同)を実施いたします。母校に帰ってキャリアアップを目指す皆さんのご参加をお待ちしています。

お問い合わせ先: 大学院課 TEL. 075-465-8195
E-mail: graduate@askic.kic.ritsume.ac.jp

日 程	時 間	開催場所	参加研究科(予定)
11月16日(木)	18:30～20:30	大阪オフィス(淀屋橋)	法、経済、経営、社会、国際関係、政策科学、文学研究科
12月 9日(土)	14:00～16:00	びわこ・くさつキャンパス	経済、経営学研究科
12月16日(土)	14:00～16:00	衣笠キャンパス	法、社会、国際関係、政策科学、文学研究科

**立命館新世紀の幕開けに
世界と未来に開かれたこの門を贈る**

立命館大学校友会 学園創立100周年記念募金 募金者一覧
(APU正門募金)

募金者総人数 5,314名 募金総額 102,325,869円

個人名

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

板花	磯垣	伊勢	泉山	石松	石原	石橋	石津	池田	井阪	生川	飯田	荒木	荒川	荒川	姉崎	新崎	安達	足立	朝立	赤松	青野	青山	相模	2	辻	佐藤	車庫	川尻	郷	渡部	依田	吉野	吉田	吉田	吉田	横本	山本	山本	山崎	山口	山口	山岡	矢野	柳原	柳原	安田	八木	森田	村林	村上	宮野	
茂	親	範	範	茂	小	正	恭	明	明	強	正	三	昭	文	和	雅	正	豊	嘉	良	政	英	清	2	万	千	正	利	久	人	留	正	成	英	博	健	秀	芳	靖	利	通	幸	孝	喜	正	昭	昭	正	昭	李	益	平

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

戶田	森	島	佐	丸	弘	永	田	盤	矢	江	松	路	休	垣	井	井	井	井	天	田	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	出	出	鶴	津	坪	坪	常	堤	堤	堤	筒	筒	土	土	津	津	辻	辻	辻	辻	辻	辻	津	津	塚
一勝	隆	泰	紀	義	成	幸	曉	修	曜	雅	憲	邦	東	內	洋	忠	孝	浩	達	和	淳	正	惠	清	清	武	仁	重	千	裕	幸	利	俊	真	忠	五	英	貞	康	建	純	善	好	通	出	次	清	建	弘	治	康			

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

佐々木	坂本	阪本	飯田	坂井	飯上	坂井	酒井	佐藤	近藤	近藤	小山	小山	小林	小林	小野	古川	古川	粉川	高下	高下	金原	金原	木村	木村	木村	衣川	衣川	北田	北田	菊池	姜尚	河部	川瀬	川瀬	川瀬	川瀬	上村	上村	上村	金加
文太郎	直夫	信哉	光彦	定男	好雄	克久	克久	哲郎	智朗	一郎	喜夫	喜夫	常昭	正明	喜夫	久澄	雅芳	久澄	禮藏	忠志	博之	善吉	修司	修三	村平	大工	戸兵衛	孝四郎	幸一	隆成	祐典	義治	良典	武彦	秀修	重行	敦夫	久雄	善雄	
弘			彰彦	男	基雄	久佳	久佳	陽一	朝朗	一郎	喜夫	喜夫	昭昭	正明	喜夫	久澄	雅芳	禮藏	忠志	博之	善吉	修司	修三	村平	大工	戸兵衛	孝四郎	幸一	隆成	祐典	義治	良典	武彦	秀修	重行	敦夫	久雄	善雄		

[illegible][illegible][illegible]

小林	熊谷	木川	桂川	奥寺	上坂	有馬	服部	岡部	渡辺	渡辺	和田	和尾	鷺田	米山	米澤	四元	吉田	吉田	吉田	吉田	横田	湯澤	山本	山村	山下	山口	山口	山上	山上	山内	柳瀬	弥生	安八	安田	矢倉	守屋	森田	森田	森田	村上	村上	村上	向口	宮崎	宮崎
善和	義典	友彦	智弘	光紀	理子	俊一	義孝	泰治	元秀	忠昭	裕彬	智清	繁正	文士	界昇	定雄	幸男	幸男	重明	章夫	紀夫	武良	德次	祥雄	利康	庄三	悠二	正良	高路	龍显	英健	巧卓	久博	信一	正信	武隆	上見	長保	浩志	道次	徳行	久夫			

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

柏木柳 梶原野 笠松西 笠西井 葛田并 角加賀 角垣内 垣内加 加賀谷 甲斐元 武貝谷 海津江 海江折 折戸表 面小 小原 小野 小野 小野 小野 小野 越智 越智 小田 小田 小田 小田 尾瀬 押澤 小澤 小澤 小澤 小澤 笹仁 武欣文 正康 忠宗 雅圭 正作 雄博 忠村 哲久 瓜利 瓜利 茂吉 田泰 山崎 谷正 秀優 柳耕 博啓 辰正 山一 泰眞 慎忠 正谷 正浩 泰正 正文 達忠 國秀

[illegible][illegible]

編集室から

＊校友の皆さんお元気ですか。記録的な暑い夏も終わり、収穫の秋、お米の出来高指数も103と予測され、庶民の力を感じます。さて、校友会報『りつめい』の変化にお気付きでしたか。編集内容はもとより、装丁も200号の斬新なデザインに、その後の表紙、色彩、割り付けなど。時がめぐる四季に合わせてその都度相応しいものに工夫しています。今号企画はその時を全力で生き抜く人、母校の新システムに参加し、今をより輝かせる創造的な人達、世界に結び異文化理解の取り組みなど豊富です。Enjoy it!

(和)

＊西暦2000年という区切り、そして立命館学園創立100周年という区切りに当たる今年は、年月の流れをことのほか意識させられる。区切りと言えもう一つ、多くのサークルが創部50周年を迎えている。いくつかの記念行事にお伺いしたが、いずれにおいても創部以来継続して面倒を見てくれた諸先輩に出会う。学生時代のことを昨日のこのように話される表情は生き生きとして、聞いているほうもその時代を覗いている気持ちになる。立命館に学び、多くの良き校友と出会えたことを改めて誇りに思い、自由と平和に感謝したい。

(佐野)

＊本学出身者にプロのレーサーがいることに驚いた。しかも日本のトップドライバーの域で活躍しているではないか。精悍な顔つきと鍛えられた肉体が眩しかった。歳は私とちょうど一回り違い、誕生月も同じ12月、無性に嬉しくなってきたが、彼の命さえ懸けた人生のありようを我が身に照らせればただだらやましいのみ。表紙撮影で出会う人々にひたすら感服するばかりでは淋しいか。世紀をまたぐ立命健児、私もその一人として生きねば。

(オ)

2000年版新校友名簿の下記項目に誤りがありました。ここに訂正してお詫言いたします。

■ 34p 都道府県校友会一覧
愛知県校友会 連絡先電話番号

(誤)	(正)
052-228-5778	→ 052-916-1282

りつめい No.202/年4回発行

発行所/立命館大学校友会
編集人/尾崎 敬則
発行人/河原 四郎
〒603-8577 京都市北区等持院北町
Tel. 075 (465) 8120・8124
Fax. 075 (465) 8125
http://www.ritsumei.ac.jp

I N F O R M A T I O N

校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
北摂地区校友会総会	10/ 6 (金) 18:30	ホテルアイボリー	山口 昭 06 (6854) 0681
千葉県校友会総会	10/ 8 (日) 13:00	船橋グランドホテル	角野 誓紀 043 (433) 0669
経済学部同窓会総会	11/11 (土) 15:00	びわこ・くさつキャンパス	教務センター経済 077 (561) 3940
愛知県校友会総会	11/11 (土) 17:00	名古屋 平安閣	名古屋冠婚葬祭互助会秘書室 052 (916) 1282
RBC創部50年を祝うOBの会	11/18 (土) 13:00	衣笠キャンパス	藤谷 正直 075 (441) 8837
学園祭参加・ホームカミング企画	11/18 (土) 17:00	衣笠キャンパス	校友会事務局 075 (465) 8120
土木工学科昭和51年入学者同窓会	11/18 (土) 16:00	三井アーバンホテル大阪ベイタワー	大谷 恭弘 078 (803) 6044
宇部・小野田地区校友会総会	11/18 (土) 18:00	堀辺旅館	宇部市役所内 森島正信 0836 (31) 4111
東京校友会総会	11/19 (日) 13:00	品川プリンスホテル	東京オフィス 03 (5204) 8611
宮城県校友会総会	11/24 (金) 18:00	仙台東急ホテル	大沼 久明 022 (259) 5511
茨城県校友会総会	11/26 (日) 13:00	水戸市民会館	木村 幸夫 029 (252) 8401
写真研究会OB会第2回記念写真展	11/30 (木) ~12/6 (水)	フォトコリドール・ムツミ	岡本 朗 075 (921) 0823
静岡県校友会総会	12/ 3 (日) 14:00	ホテルグランド富士	鈴木 敏彦 053 (436) 7892

校友消息 (判明分)

叙勲 2000年度春分

- ☐ 勲四等旭日小綬章
山西彌市氏 (昭23専工) 地方自治
- ☐ 勲五等瑞宝章
田口英男氏 (昭28法) 地方文化

就任

- ☐ 梅村裕司氏 (昭41法)
最高検察庁 検事

訃報

- ☐ 大浦勝氏 (昭35経済)
陸上競技部OB・OG会会長。
6月1日ご逝去。63歳。
- ☐ 杉田嘉一郎氏 (本学名誉教授)
8月18日ご逝去。80歳。



校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただきます。

◆ 山田 徹氏 (昭58法) 著
『キャラクタービジネス
「かわいい」が生み出す巨大市場』
P H P 研 究 所 * 1 2 0 0 円

◆ 渡邊隆男氏 (昭61文) 著
『岡山の流れ橋』
日 本 文 教 出 版 * 8 0 0 円

◆ 加藤英昭氏 (平1理工) 著
『ブーの描いた世界』
文 芸 社 * 1 1 0 0 円

◆ 山下典孝氏 (平1法) 共著
『外務員・代理店・仲立人のための
保険コンプライアンスQ&A』
BSIエデュケーション*700円

◆ 田坂節子氏 (平4文) 共著
『君たちが世界を動かす！
こどもの経済学』
郁 朋 社 * 1 0 0 0 円

価格は本体価格です。

お知らせ

校友住所等変更通知専用 フリーダイヤルを開設いたしました

お名前・ご住所・勤務先・電話番号等変更の際にご利用下さい。なお、郵便でも受付ております。

●Tel. 0120-252094

●Fax. 0120-252095

各種証明書発行依頼先について

卒業証明書・成績証明書などの発行依頼は各学部事務室までお願いいたします。
二部 (現・夜間主コース) 卒業生の方につきましても同様に各学部事務室にて承っております。

[証明書発行依頼先]

■法学部・文学部・産業社会学部・国際関係学部・政策科学部…
衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

Tel. 075(465)1111 (代)

■経済学部・経営学部・理工学部…

びわこ・くさつキャンパス

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

Tel. 077(566)1111 (代)

2000年度学園祭参加・ホームカミング企画

立命館大学校友会キャリアアップフォーラム —21世紀のリーダーをめざして—

新しい時代を生き抜くために、何を見、何を考え、どう行動するか。各界をリードする先輩校友の講演を参考に、若き職業人として、新世紀人としてのあなた自身を見つめ直して下さい。

[日時] 11月18日 (土) 17:00~19:00

[会場] 立命館大学衣笠キャンパス 以学館1号ホール

[内容]

第1部 基調講演

講師：川端義明氏 (NHKチーフアナウンサー・昭50法)

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター：川端義明氏

パネリスト：住野公一氏 (オートバックスセブン

代表取締役社長・昭45経済)

朴 慶南氏 (放送作家・昭47文)

他 各界で活躍の方々

■お問い合わせは
立命館大学校友会事務局 (校友課) Tel. 075-465-8120